

# 1. 学校運営目標の実施状況と成果

各学科・科、各種委員会等、各部門の活動内容を明確にし、学校運営の効率化を図るために、各部門の年間運営目標を年度当初に設定し、年度末に実施状況と成果について評価を行う活動が平成15年度から始まった。以下に、平成15年度の各部門の運営目標と実施状況、およびその評価を示す。(運営目標をゴシック体で、実施状況と評価を明朝体で表記している。)

## 1.1 平成15年度学校運営重点推進目標の実施状況

個性豊かな教育を創造・実践するとともに、教育研究の向上にたゆまず努力し、地域とともに歩む信頼される学校をめざし、次の取り組みに重点を置く。

### ○ 各項目ごとの実施状況とその成果

1. 新しい教育理念・教育目標の定着化をはかるとともに、各学科・科、専攻科の教育目標の明確化、具体化を推進する。
  - ・学校案内、学校ホームページ、履修要覧等に掲載するとともに、入学式の式辞、始業式の訓話、学校見学会、保護者との懇談など様々な機会に説明をし、趣旨の徹底を図った。
  - ・各学科等の教育目標についても、学生に十分説明するとともに、はばたけ未来などの出版物の作成に反映した。
2. 平成16年度の独立行政法人への円滑な移行のため、諸準備を鋭意進めるとともに、学校運営の効率化、学校活動に対する評価システムの確立、社会的説明責任を果たす活動を充実する。
  - ・独立法人化の検討状況については、随時運営会議等に報告するとともに、全教職員を対象にした説明会を4回実施した。学校改革推進室を中心に、学校の中期計画をとりまとめた。
  - ・学校運営の効率化については、16年度に向けて、授業時間割表作成の工夫等による会議時間の確保、委員会構成員の見直し、会議室等のIT予約システムの導入などを行った。
  - ・外部評価については、機械工学科、電気・電子制御工学科、材料工学科の三グループで行った。
  - ・研究者情報の整備等ホームページの充実に努めた。また、行事を行うに当たっては、マスコミに積極的に情報提供を行った。
3. 教育改善活動を一層推進する。そのため、各学科・科、専攻ごとの教育改善推進体制(計画、実践、評価)を確立し、授業公開の実施、教員間の評価活動を推進するとともに、研修会の定期開催など学校全体の教育改善推進計画を策定する。
  - ・教育改善推進計画を策定し、計画的な実施を心がけた。その成果を「教育改善推進計画の実施状況」として、まとめた。外部講師を招いての研修機会をもう少し強化すべきである。
  - ・公開授業の実施については、学科によって取り組みに温度差が見られた。実施後のフィードバックなど効果的な実施について課題を残した。
  - ・教員間相互の評価活動については、今後の課題である。
  - ・各科等の教育改善システムについては、効率的なものとするよう改善する必要がある。

る。

4. 学生の学習意欲の向上及び自律的な学習・生活習慣の形成を支援するため、オフィスアワー制度の導入、学級担任サポート体制の充実、HR活動の活性化など学校全体での取り組みを強化する。また、個に応じたきめの細かい進路指導を行うとともに、進路指導を計画的、体系的、組織的に行う体制の確立に努める。
  - ・低学年教育委員会の活動、3年学級担任の担任連絡会、低学年のショートホームルームの実施など学校全体の取り組みとして一定の成果をあげることができた。
  - ・オフィスアワー制度の実施状況については、学生にどの様に受け取られているかなど点検評価する必要がある。専門学科のアドバイザー制度も学級担任との連携等改善する必要がある。
  - ・進路指導については、各学科でさまざまな努力が払われたが、毎年内定時期が遅くなる傾向がある点や就職または進学先が決まらなかった学生が少数ではあるが生じた。今後も、進路指導の計画的、体系的、組織的実施体制を検討する必要がある。
  
5. 学生の自主的、主体的な課外活動を奨励、支援するとともに、学生として規律ある生活を送れるよう教職員が一体となった指導を行う。特に、チャレンジプロジェクト支援事業をはじめ創造教育、健康教育、環境教育、読書指導の充実に努める。
  - ・学生会の活動が例年になく活発に行われた。クラブ活動については、参加率の向上を図る必要がある。
  - ・チャレンジプロジェクトについては、禁煙、ソーラーポート、国際交流、学習障害児との交流のプロジェクトが行われ、その成果発表も行うことができた。
  - ・タバコのない学校環境の実現については、校則違反者に禁煙外来を受ける指導を新たに採り入れ、一定の成果を得た。16年5月から県立高校が敷地内完全禁煙になることを踏まえ、一層推進に努める必要がある。
  - ・学生会に環境専門委員会が発足し、図書館裏広場の花壇の世話や高専西側の市道の清掃活動など新たな成果をあげることができた。
  - ・図書館利用については、図書館より毎月学年別クラス別の貸し出しデータを提供することが行われた。全体としては、貸し出し冊数が前年度より大きく伸びる結果を得た。
  
6. 研究活動について、地域ニーズに対応した研究を推進するとともに、本校の特色となる研究シーズに応じた学内プロジェクト研究を推進する。研究費の配分について、さまざまな業績評価が反映できる仕組みを工夫する。
  - ・特別設備として、移動体通信の研究装置一式を導入した。
  - ・研究紀要について、一部ではあるが査読制度を導入した。
  - ・研究費の配分については、15%を業績反映分として留保して配分したほか、最優秀教員及び優秀教員については、特別配分を実施した。
  
7. 地域との連携を一層推進する。そのため、高度技術教育研究センターを中心に、年間推進計画を策定するとともに、事業・プロジェクト・テーマごとに評価活動を実施するなど「地域連携推進プラン」を推進する。
  - ・地域企業等との共同研究、技術相談の件数を大幅に伸ばすことができた。また、知的財産研究会が発足した。

- ・県、市、産業支援機関と一体となって、エリアの産学官の連携を促進する外部資金の獲得を目指した活動を行った。本校の提案により初めての試みとして四国地区6高専産学官交流会を開催した。
- 8 . J A B E E 認定に向けた取り組みを強化する。生物応用化学プログラムの本年度受審に向けた準備を進めるとともに、J A B E E 推進会議を定期的に行い、J A B E E 推進チームごとの取り組みを促進、評価する。
    - ・生物応用化学プログラムについては、受審することができた。
    - ・複合融合型の教育プログラムとして、「デザイン工学プログラム」を策定し、教育目標・学習目標等をホームページに掲載し、公開した。
    - ・J A B E E 推進室会議を6回開催した。今後、「デザイン工学プログラム」の受審準備を強力にすすめる必要がある。
  - 9 . 学校運営の効率化と責任の明確化を図るため、各学科・科、各種委員会、センターは、年度当初に年間の運営重点推進目標を設定し、年度末に活動実績について評価を実施する。
 

また、予算の効率的、効果的な使用を図るため、校長裁量経費配分対象プロジェクトや学科配分経費の評価を行う。

    - ・年度当初に「平成15年度学校運営目標」を策定し、その実施状況と評価を「平成15年度学校運営目標の実施状況」として、取りまとめた。
    - ・校長裁量経費配分対象プロジェクト及び学科配分経費の評価は、次年度行う。
  - 10 . 教官の業績評価システムの改善充実を図る。そのため、教育業績、研究業績、学校運営参画業績、地域貢献業績ごとの評価者、評価尺度を明確にする。
    - ・業績評価の実施要綱を改正した。評価尺度については、第1次評価者の評価にばらつきが見られることから、引き続き検討研究する必要がある。
    - ・最優秀教員、優秀教員の氏名を公表し、最優秀教員については、校長表彰を行った。
  - 11 . 学習環境の改善のための施設設備の整備を推進するとともに、学校施設の有効活用を促進するため、施設マネジメントの観点に立った施設活用指針を策定する。また、学生寮の環境整備に努めるとともに、女子寮の設置に向け諸準備を鋭意進める。
    - ・一般教育棟に新たにHR教室を確保した。留学生交流室の整備、教職員連絡コーナーの整備、トレーニングルームの整備、尚友会館前の憩いスペースの整備、正門掲示板の設置、防犯カメラの設置などを行った。有効利用のための中長期的な見直し作業は、今後の課題である。
    - ・英語のコンピュータ利用学習システムの導入や新しい教育内容に対応した設備の整備を行った。
    - ・女子寮「清風寮」の整備を完成させ、11名の女子学生が1月から入寮した。あわせて、学寮広場の整備、男子寮の床の張替え、冷蔵庫の設置など環境改善を行った。
  - 12 . 点検評価活動について、年闘実施計画を策定し、計画的・継続的に実施する。点検評価の仕方・内容及び改善活動への反映状況について評価を行い、必要な見直しを行う。
    - ・企業向け及び保護者向けアンケートを始めて実施した。各種のアンケート結果を迅速に活用できるよう、カードマークリーダーなどの整備を行った。

- ・実験実習、卒業研究などの分析評価に力を入れるとともに、学科単位の外部評価を実施した。
- ・点検評価については、計画的、重点的、効率的な実施計画を立てる必要がある。また、学校教育法に基づく認証評価、独立行政法人国立高専機構の評価など第三者による評価に対応するため、本校の活動にかかわる教育研究情報の整理・蓄積を進める必要がある。

### **総括的な評価と課題**

- ・年度当初に学校運営全般について運営目標を立て、年度末に実施状況の点検評価を行う試みは初めてであったが、全教職員が学校運営の課題・目標に共通の理解を持ちそれぞれの役割の中で成果を出してくシステムとしては、一定の成果が得られたと評価する。
- ・来年度の目標設定に生かされることが重要である。